

立体交差急速施工法の開発 Taisei Quick Bridge(TQB)工法

小林 信明・小原 直・西田 泰夫・白石 俊英

Development of rapid construction methods for grade separations

Nobuaki Kobayashi, Naoshi Obara, Nishida yasuo and Toshihide Shiraishi



- ① T Q B - R 工法（鋼床版桁搬送状況）
- ② T Q B - B 工法（プレキャストブロック据付状況）
- ③ T Q B - K 工法（仮設迂回路全体図）

研究の目的

都市再生への取組みが政府・地方自治体を中心となって進められている中、首都圏はじめ大都市圏での交通渋滞解消への対応が強く求められています。有効な対策として交差部立体化がありますが、従来では工事完成まで数年を要し、工事中の交通規制が渋滞を更に悪化させるというジレンマがありました。

この問題を解決するために開発したのが、超短期間で立体化工事を完成させる画期的な工法「Taisei Quick Bridge (T Q B) 工法」です。

技術の説明

上部工の軽量化、及び基礎のプレキャスト化とP C 鋼材緊張による一体化施工の採用、並びにコンクリートブロックの橋梁への展開を図り、大幅な工期の短縮を可能にしました。

主 な 結 論

交通を確保しながらでも8.5ヶ月、全面交通止めでは1.5ヶ月で完成させる交差部の立体化急速施工法「Taisei Quick Bridge (T Q B) 工法」の特徴を活かし、都市部の交通渋滞解消へ向けた交差部立体化の推進に役立つと考えています。